

職場の問題研究部会

I 研究テーマ

「ゆとりある学校づくりをめざして」
～自分たちにできるエコ活動～

II 研究テーマ設定の理由

近年、地球温暖化をはじめとする環境問題が世界規模で大きく取り上げられている。有効な対策が進まず深刻化の一途をたどっていることに不安を感じ、改めて地球の有限性に気づかされ、生活様式のあり方を変えなければならないと認識している。

地球規模での取り組みが必要なことはいままでのないが、私たち一人一人が日々の暮らしの中で環境と人とのかかわりについて理解を深め、自然と共生し、身近なところから具体的に取り組んでいくことが重要である。

たとえば、甲府市においては、ごみ問題や環境問題を取り上げて、環境教育副読本の作成や小中学校数校への太陽光発電の設置などの取り組みを行っている。また、冷暖房機運用ガイドラインを設けるなど温暖化対策やエネルギーの経費節減にも乗り出している。小中学校でも、市教育委員会や環境部からの指導を受けて、ごみの分別や軽減に努めている。まだまだ十分な取り組みではないが、意識の変化を実感している。

このような状況の中で、私たちは、学校におけるごみの実態と問題点を調査し、改善に向けた取り組みについて研究してきた。特に、今年度は啓蒙のための資料作りに重点を置いて研究を行い、「自分たちにできるエコ活動」とおして、「ゆとりある学校づくり」をめざしてきた。

III 研究の経過と内容

1 研究の経過

- 4月10日（木）研究組織と研究テーマについての検討
- 5月15日（木）研究テーマの確認と研究計画の作成
- 6月17日（火）分別リサイクルの掲示資料について意見交換
- 8月 7日（木）グループ別研究
- 8月20日（水）実践研修
- 9月 4日（木）グループ別研究、実践研修の反省
- 10月 2日（木）全体研究（グループ研究の中間報告）
- 11月 4日（火）分別リサイクルの掲示物について確認
- 1月27日（火）今年度の反省および来年度の方向性

2 研究内容

(1) ごみ量調査

今年度も可燃ごみとミックスペーパーについてごみ量調査を行った。

- ・ごみを圧縮するなどして袋の数を減らす努力をしている。
- ・ごみが集まったところで再度分別を行い、リサイクルに取り組んでいる。
- ・ミックスペーパーとその他のごみの分別がされていないものがある。
- ・ミックスペーパーと燃えるごみの袋の色を変えたらどうか。

等の意見が出され、全体としては取り組みが進んでいるとまとめられた。啓蒙資料が配布され、活用が進めば分別も改善されると期待している。

(2) 啓発資料作成

以前作成した資料「あなたにもできるきちんと分別リサイクル」と「教室で出るごみや紙のわけかた」について修正を行い、環境部の協力も得て、市内全部の小中学校に配布することとした。(資料参照)

できる限りわかりやすく、表現なども工夫して作成した。広く活用され、エコ活動の取り組みが進んでいくように願っている。

(3) 実践研修

ここ数年、環境について学習し、ごみ処理場や米倉山太陽光発電所などを見学してきたが、もっと身近にエコについて体験してみようということで、県男女共同参画推進センターの協力も得て、エコな料理教室を開催した。講師の守屋先生には、私たちの活動と研究内容を事前にお伝えし、研究内容に即した計画を立てていただけた。反省をまとめたところ、ごみを出さない工夫について改めて考えることができた等、好評だった。さらに、守屋先生から地産地消といったお話もあり、有意義な取り組みとなった。

IV 研究の反省と課題

数年行ってきたごみ量調査から、ミックスペーパーとごみの分別ができていない実態が浮かび上がってきた。分別は意識しているが、区別がつかず迷っている状況を解決するために、以前作成した資料を見直し、市環境部の協力も得て作成し、市内小中学校に配布することにした。啓蒙資料が浸透し、教職員、児童生徒のエコへの意識や興味が高まることを期待している。

実践研修は、新たな切り口から環境について考えてみた。日ごろの難しい問題から暫し離れ、楽しみながら環境について考えることができ、有意義だった。体験を通して学ぶことの大切さを感じた研修だった。

ゆとりある学校づくりのために、エコ活動について研究を続けてきたが、部会員の職種が限られているため、限界を感じている。研究内容については、構成を見ながら検討する時期にきているのではないか。

